

茅渟神社

[ちぬじんじや]

鎮座地

御祭神

泉南市樽井5-11-9

あめのおしほみのみこと
天忍穗耳命
いくつひこねのみこと
活津日子根命
たぎつひめのみこと
多岐都比賣命

あめのほひのみこと
天之菩卑能命
くまのくすびのみこと
熊野久須毘命
いちきしまひめのみこと
市杵嶋比賣命

あまつひこねのみこと
天津日子根命
たぎりひめのみこと
多紀理比賣命

(以上が天照大神の御子)

えびすおおかみ
恵比寿大神

すがはらみちざねこう
菅原道真公

かんやまといわれひこのみこと
神倭磐余彦命

(神武天皇)

由緒

茅渟神社は泉南市樽井の中央に位置し、創建は平安時代中期であり現在の本殿は安土桃山時代に建立され軒唐破風春日造りであります。

天忍穗耳命より市杵嶋比賣命に至る八柱の神々は、天照大神の御子にして八王子又は初王子とも

云い、天忍穗耳命は皇孫邇々藝命こうそんににぎのみことの御父神で、御弟神と共に国造りを行い、三女神は海上をつかさどり、海の神・航海安全の神・交通安全の神として崇敬され、殊に市杵嶋姫比賣命は、皇孫邇々藝命を立派に成育され給ひし神により、子供の守護神として崇敬されています。

恵比寿大神は、商売繁盛・家運隆昌の神様であり、菅原道真公は学問向上の神様であります。

【主な祭事】

- ・ 1月1日……………歳旦祭
- ・ 1月9、10、11日…ちぬ戎
- ・ 1月15日……………小正月、とんど祭り
- ・ 2月3日……………節分祭
- ・ 3月18日……………祈年祭
- ・ 7月31日……………夏祭
- ・ 10月第2土・日曜日……秋祭
- ・ 11月15日前後……七五三祭
- ・ 12月18日……………新嘗祭
- ・ 12月31日……………除夜祭
- ・ 毎月1、15日……………月次祭

《ちぬ戎》

歴史が古く江戸時代には信達荘の戎さんとして崇敬され、店も沢山でて大変な賑わいであったと記載されています。(樽井町誌参照)

現在も地域の信仰が篤く、1月10日の本戎には地区の事業所の協賛により副賞付き餅投げの奉納があります。

又、茅渟釣りの愛好家が[笹]を釣竿とみたと、大漁を願ってたばられます。

《秋祭り》

樽井のやぐらの起源は江戸元禄時代で、大きさは他の地区と比べ大きく高さは5m、全長は10mあり材質はけやきで造られ笛の曲(道中・銀のかんざし・大文字夜・せんま)そして太鼓の大きさは他に類をみない特徴があります。

このような大きなやぐらを作ったのは、江戸中期から幕末にかけて天下に雄飛した豪商の町、樽井の富裕を表したものであります。

本祭の渡御(とぎょう)は神社から樽井の浜まで、四台のやぐらの後を、みこし、お稚児さんと行列を組んでおわたりをします。このような渡御形態が残っているのは、大阪府下ここだけです。

《茅渟の起源》

樽井は往昔山より清水が湧き水の如く湧き出づるにより山之井の里・垂井とも云い、地形的には樽井は馬場の長山の続きで台地を形成し樹木が鬱蒼と生い茂り水は山の井水門へ流れ落ちていた。樽井台地の山裾はすぐ海辺にして波が打ち寄せ、西の方には金熊寺川が流れ、海は入りこみ自然の良港をなしていた。

神武天皇御東征の砌(2600年前)、く さ かざか 孔舎衛坂でながすねひこ 長髓彦との戦で、ひこいつせのみこと 皇兄彦五瀬命が矢疵をおわれ戦況も劣勢になり、まずは海に退去するも傷を癒すが為に山の井水門に舟をとどめ、彦五瀬命・家来共に疵を洗うに水が血の色にそまり血の沼(樽井の海周辺)となり、海に注ぎちぬ血沼となり茅(海岸沿いは、茅類が繁茂していた)渟(沼と渟は同義語)となった。

(チヌ鯛)

茅渟の海でよく獲れ、魚体も美しくシンボリック的存在として名称がつけられたのではないかと。

ちぬ釣りの愛好家が、供養と釣り安全を目的として参拝する人が遠近よりこられます。